

発刊にあたって

この度、根室市の水産業の現状をご紹介させて頂くべく、「令和6年度版 水産ねむろ」を発刊致しました。

当市は、北方海域の豊かな水産資源を背景に、北洋漁業の開拓とともに発展を遂げて参りましたが、度重なる国際漁業規制の強化などから、沖合漁業は次第に縮小を余儀なくされてきました。

近年、水産業は海水温の上昇等による主要魚種の不漁や、漁獲される魚種の変化、漁業就業者の減少と高齢化、更には燃油・資材・飼料の価格高騰なども相まって、水産業を取り巻く環境は厳しさを増しております。

こうした中、昨年、当市においては大宗漁業の一つである「こんぶ漁」が、一昨年の高水温や流水接岸など様々な要因から、昆布の着生・繁茂状況が悪く、数量・金額共に過去最低水準となりましたが、一方で、近年、低調に推移していた「さんま漁」は、前年の水揚げを大きく上回る取扱いとなり、「15年連続水揚げ日本一」の座を確保し、また、全体の水揚げを通して、「たら」をはじめ、沿岸漁業における「たこ」「うに」「ホタテ」などの漁獲も堅調に推移し、その結果、5万トンを超える全体水揚げとなったことに加え、金額も令和に入り初めて200億円の大台を超える取扱いとなりました。

ここ数年、大変厳しい水揚げ状況が続き、漁業関係者皆様も大変なご苦勞をされたものを推察致しますが、こうして窮地に追い込まれても、諦めず困難を乗り越えてきた賜物であり、これこそが「水産都市・根室」の矜持・底力の表れであると実感しております。

水産業は今、顕在化してきた海洋環境の変化を背景とする主要魚種の不漁、国際漁業の課題、少子高齢化等による人材不足をはじめ、取り組むべき課題は山積しております。

当市は海と共に暮らし、歩み、そして海に生かされる街であります。

「水産都市・根室」「水産物供給基地」として、国内の食糧安全保障の観点からも一次産業が国を底支えているとの思いのもと、国際漁業権益、沖合漁業の堅持はもとより、「つくり育てる漁業」の定着と、現状を維持する持続可能性を追い求めるだけではなく、更に一步踏み込んだ変化に対応し得る「再生可能性」を追求し、新たな産業の創出に向け、積極的に挑戦する想いがあります。

本紙を通じて、当市水産業の現状をご理解頂き、今後とも当市水産業の発展に向け、読者皆様のお力添えを頂ければ幸いに存じます。

結びに、本紙作成にご協力を頂いた関係団体の皆様に心より感謝を申し上げます。

令和7年3月

根室市長 石垣 雅敏

